

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100112		
法人名	営利法人 ㈱兵庫福祉保険サービス		
事業所名	松風の郷東浜		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町陸上494		
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成29年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目前には新築された東浜駅の瑞風が停車し、利用者様が手を振る光景も微笑ましく、散歩には東浜海岸の素晴らしい景色が見られます。東浜施設独自の理念「喜努愛楽」喜び努め、愛を持って楽しく過ごせるよう、暖かい家庭的な施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年話題のトワイライトエクスプレス瑞風が停車するJR東浜駅より徒歩で1分。海と山に囲まれた、自然豊かな環境の中、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」の松風の郷理念の基、利用者や職員が共に喜び、楽しみを持って毎日を過ごされている。従来よりグループホーム東浜独自の理念「喜努愛楽」を作成され、継続して和やかに暮らせるような施設を目指されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	松風の郷全体の理念を踏まえつつ、東浜独自の理念を作り出し、職員一同その理念を基に実践するよう勤めている。	理念は、玄関、リビングに設置されている。松風の郷の理念を踏まえつつ、東浜独自の理念「喜努愛楽」を職員一同が共有され、実践に繋げている。また、自分の仕事が本当にそれで良いのかと振り返ることを心がけていると職員の方の力強い言葉も伺った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	海岸清掃、防災訓練や運動会など地域の行事には参加している。また、施設の行事への参加の案内を行っている。	海岸清掃や防災訓練、運動会など地域行事に努めて参加されている。町内会、近隣には、施設の行事案内をポスティングしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向ける場を設けておらず、活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は二ヶ月に一度行い地域住民、町職員、利用者家族との意見交換、現状の報告など話し合いを行っている。	運営推進会議は、2か月に1回行われている。民生委員からのアドバイスで内部公開をされた。また、ハロウィンでは、見学者の方へ食事を提供された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月介護相談員の訪問にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	毎月岩美町より2名の介護相談員の訪問により、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えられている。リビングにて利用者、職員は、いつものように生活されながら、介護相談をされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解し取り組んでいる。万が一やむを得ず必要な事態が起こった場合に備え同意書の作成、準備を行っている。	月に1回のミーティングカンファレンスにて、振り返り、話し合われている。また、身体拘束について正しく理解し、取り組まれている。ベット柵をつけるなど必要な事態が起こった場合は、同意書を作成、準備されている。日中は玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はまだあまり持っていないが、虐待防止マニュアルを基に虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はあるが、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解納得していただいた上で同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族ともコミュニケーションをとり意見・要望を聞き、不安等の軽減を図るとともに課題・問題点をスタッフ会議で話し合いを行っている。	利用者家族とは、面会時等に話をされ、意見要望を聞かれている。また、利用者の不安や問題点などについては、スタッフ会議で話し合い、家族にも相談されながら、改善に努められている。年1回、浦富と合同で家族参加のもと井筒屋で交流された。また、夏祭り、敬老会等、行事のたびに家族へも案内されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やミーティング、職員面談を行い意見提案を出す話し合いの機会を設け運営に反映している。	月に1回、運営会議やミーティングが行われ、職員面談を行う他、意見提案を出す話し合いの機会を設けられている。経営者側との職員面談も年に1回行われ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職雇用による意識改善、資格手当や育休などの整備、処遇改善などの制度を活用し環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は一部必須の研修を定めている。必須外の研修については職員個々の意欲的な取り組みと捉え積極的に推進している。いずれも費用は法人が負担している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者との交流は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し本人と面会する機会を設け不安や要望等傾聴し、安心してサービスを受けていただけるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設内の見学や、家族や関係者の話を伺う場を設け、意見や要望を傾聴し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望や意向を読み取り、適したサービス利用が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて生活していただき、皆が協力し合って生活できるよう利用者の立場に立っての関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際の同席や行事の参加を集い、本人と家族の関係を大切にしている。また、日々の生活の様子を報告し、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の習慣に沿った生活になるよう努めており、友人や知人の面会もいつでも受け付けている。また、本人の馴染みの場所へのドライブなどの支援を行っている	本人の生活習慣に沿って、個々に支援が行われている。友人や知人の面会はいつでも受け付けてはいるが、利用者が高齢のため馴染みの人が訪れることはほとんどない。外出の際、ドライブで馴染みの場所を通ったり、昔よく通った和菓子屋などへ出かけられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入っでの会話やレクリエーションなど利用者同士の交流を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、相談があればいつでも受けることが出来るよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、様子や会話等から本人の思いや希望、意向等の把握に努めている。困難な方に対しては、家族からの情報提供や生活歴をふまえ本人本位に検討している。	本人の生活歴や暮らしの希望を把握され、日々の暮らしの中での様子から、利用者の思いや意向を汲み取り、支援に努められている。個々の希望に沿っての外食や外出支援、また、家族がなく情報が得にくい利用者については、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの暮らしの様子やサービス利用の経過、生活歴等の把握に努め、快適な生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方をケースに記録し、支援経過記録を記入している。健康管理に努め、状況に応じて医師に相談し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から個々にある課題やケアの状況を把握し、毎月のカンファレンスで話し合い、本人や家族の意見を反映させながら現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとの担当職員から個々にある課題やケアの現状について、提案されるなど、毎月のカンファレンスにて話し合い、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態変化、ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別に記録している。またその情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応のために、その時々話し合い適したサービス支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・SOSネットワークへの連絡が出来るよう連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの往診を月2回受けている。家族の希望があればかかりつけ医の受診を受けられるよう支援している。	ホームドクターの往診を月2回、利用者の症状に合わせて行われている。また、かかりつけ医の受診は、利用者家族の希望を聞かれながら受けられている。受診結果は月1回のおたよりにて、利用者家族に伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報の共有化を図り個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との情報交換や相談に努めている。また見舞いに行ったときの様子や経過を記録し退院後のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合など、家族との連絡を密に取り、本人や家族の意向を尊重し、医師との相談も行い支援に取り組む。	利用者が重度化した場合については、利用者や家族の意向を尊重されながら、事業所のできることを十分に説明され、医療機関との連携も図られるなどの体制を整えられている。ターミナルケアはされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い個々が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や訓練は定期的に行っている。地域の防災訓練などにも参加している。	年2回防災訓練が行われている。夜間を想定しての訓練もされ、消防署の方に指示やアドバイスをいただいたり、夜間想定イメージトレーニングを職員間で実践されている。また、町内会主催の防災訓練にも参加された。この度、伝動装置の取り付けをされ、実際に消防職員立ち合いのもと、使用された。	備蓄を用意されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、尊厳を損なうことの無いよう常に意識し、声かけや対応を行っている。	一人ひとりの人格を尊重され、トイレ誘導や入浴介助の際は、プライバシーの配慮をされながら行われている。また、常に職員間でも話し合い、意識されながら対応し、言葉かけにも注意されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや選択によって自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせるよう努めているが職員都合になっている部分もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など選べる方にはなるべく自分で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。	年間行事をたてられ、食事が楽しみなものになるよう外食支援をされている。また、利用者と職員と一緒にテーブル拭き・おしぼり巻き・食器拭きなどをされている。はしと茶碗は利用者本人のものを使われている。	利用者が楽しみとなるようおしながきを設置されるなど、より工夫をされたたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量、食事形態を考えている。また、一日の水分量を把握し、本人の好みにあった物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり本人の力に応じた口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけやトイレ誘導などを行い排泄の失敗を減らしトイレでの排泄が出きよう支援している。また、車椅子の方もなるべくトイレに座っていただいている。	各部屋にポータブルはあるが、基本的にはトイレにすわって頂きたいという思いから、声掛けやトイレ誘導などをされ、排泄チェック表を活用しながら、さりげない支援が行われている。車いすでの利用者についても自立に向けた支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や食物繊維等を使用し個々に応じた予防に取り組んでいる。また、ラジオ体操などの運動を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯が決められており、職員の場合に合わせて入浴日や時間になっている。	一人ひとりの希望やタイミング、体調を考慮されている。入浴は週3回、午後が基本になっているが、要望があれば毎日でも対応され、個々に添った支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息したり午睡していただき、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用途の理解はできていないが、服薬の支援と症状の変化の確認には努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割やレクリエーションを行い、気分転換や楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、戸外に出かけられるよう支援している。また、行事などで定期的に遠出の機会を設けている。	年間行事に沿って計画を立てられ、四季を感じられるよう、花見、食事会、夏祭り、敬老会など利用者の希望を把握されながら、遠出の機会も設けられている。また、買い物や散歩など戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金所持の希望があれば家族の合意のもと支援して。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の構造を少しずつ改善しつつ、利用者に安全かつ不快感の無いよう配慮し、利用者の作品や行事の様子などを展示し生活感や季節感を取り入れるよう工夫している。	玄関には季節を感じる飾りつけが行われ、利用者の写真や職員の予定が利用者によりわかりやすく提示されていた。リビングには、季節を感じる貼り絵など利用者と職員で制作した作品などを飾られたり、トイレ・浴室・居室等リフォームをされ、利用者の安全に考慮されていた。温かく家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が居間でテレビを観たり、楽しく会話したりと思いいりリラックスしながら過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族との相談のもと、使い慣れた物や好みの物を配し、本人が居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。	居室は、利用者や家族との相談のもと、使い慣れた寝具類や好みの物を持ち込まれ、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や残存機能を把握し、安全を考慮した上で、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		